

科目名	英語科教育法2(週2回)			ナンバリング	EDU261	授業形態	講義
対象学年	3年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	4単位
代表教員	川又正之	担当教員					

授業の概要	この「英語科教科教育法2」の授業では、前半は、英語教育を支える背景的な理論や知識を取り上げる。後半は、日本人の英語学習者、特に中学生や高校生を対象とした実践的な方法論、および具体的な指導法、指導技術を取り上げる。受講者は、複数回にわたる指導案の提出と、模擬授業の実演が求められる。
到達目標	1. 日本の中学校や高等学校における英語教育を中心とし、教職に就く場合に必要な知識と技術を身につける。2. 教育現場において問題に直面した際、理論と実践の両面からアプローチし、それに対応できるような授業力・実践力の基礎を身につける。3. 「族際補助語(国際語)」としての英語の意義を踏まえつつ、その背景にあるさまざまな言語や文化を認めて尊重し合い、対等で公平な相互関係を作り上げていくことの重要性を意識した授業ができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	教科書やプリント等の指定された箇所をよく読んでくること。学習指導要領および検定済教科書については、常に授業の関連個所に目を通すようにすること。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 検定済英語教科書の教材研究ができる。2. 教材研究に基づいて、指導案を作成することができる。3. 指導案に基づいて、実際に授業を行うことができる。	1. 教科書には取り上げられていない発展的な内容も含めて、検定済英語教科書の深い教材研究ができる。2. 教材研究に基づいて、さまざまな意味のある言語活動を含む詳細な指導案を作成できる。3. 指導案に基づいて、日本語と英語の両言語を効果的に活用しながら、生徒の実態を踏まえた授業を行うことができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○				模擬授業	50%
宿題・授業外レポート	○	○				指導案	50%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	提出されたレポート、指導案等については、添削の上、返却する。
---------------	--------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	はじめに	授業の目的や進め方、使用教科書、講義計画等について説明する。	
	第2回	英語科教育学とは何か	「英語科教育学」について、その定義を説明する。	
	第3回	日本における教授法の変遷(1)－江戸時代から昭和初期まで	日本における教授法の変遷について、時代ごとに説明する。	
	第4回	日本における教授法の変遷(2)－昭和20年代から現在まで	日本における教授法の変遷について、時代ごとに説明する。	
	第5回	英語教育方法論の理論的な背景(1)－第2言語習得研究	英語教育方法論を支える理論的な背景として「第2言語習得研究」について説明する。	
	第6回	英語教育方法論の理論的な背景(2)－社会言語学	英語教育方法論を支える理論的な背景として「社会言語学」について説明する。	
	第7回	「コミュニケーション」とは何か	言語および非言語による「コミュニケーション」の定義について考察する。	
	第8回	学習指導要領におけるコミュニケーション	学習指導要領においてコミュニケーションがどのように規定されているかを考察する。	
	第9回	さまざまな教授法(1)－ Communicative Language Teaching	Communicative Language Teaching について説明する。	
	第10回	さまざまな教授法(2)－ Oral Method	Oral Method について説明する。	
	第11回	さまざまな教授法(3)－ Oral Approach	Oral Approach について説明する。	
	第12回	英語教育評価論	評価の方法について説明する。	
	第13回	英語教育学習者論	学習者論について説明する。	
	第14回	英語教育教師論	教師論について説明する。	
	第15回	まとめ・小テスト	全体のまとめと知識の確認のための小テストを行う。	
		試験		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	教育実習の目的と心構え	教育実習に向けて何をしたらよいのかを受講者間で共有する。	
	第17回	授業の参観と観察の視点	実習校の先生方の授業を参観する際に、どういった点に注意したらよいのか、また、自分自身の授業にどのように生かしていったらよいのかを共有する。	
	第18回	指導案の作成(1)－授業の構成	授業を構成する7要素について説明する。	
	第19回	指導案の作成(2)－具体的な作成の手順	作成の手順について説明する。	
	第20回	授業の準備(1)－ Warm-up と Review	具体的な指導技術、指導方法について説明する。	
	第21回	授業の準備(2)－文法・文構造の導入	具体的な指導技術、指導方法について説明する。	
	第22回	授業の準備(3)－コミュニケーション活動	具体的な指導技術、指導方法について説明する。	
	第23回	授業の準備(4)－内容理解	具体的な指導技術、指導方法について説明する。	
	第24回	授業の実際－模擬授業(1)	受講者による模擬授業(輪番制)の実演、担当教員のアドバイス、全体での振り返りを行う。	
	第25回	授業の実際－模擬授業(2)	受講者による模擬授業(輪番制)の実演、担当教員のアドバイス、全体での振り返りを行う。	
	第26回	授業の実際－模擬授業(3)	受講者による模擬授業(輪番制)の実演、担当教員のアドバイス、全体での振り返りを行う。	
	第27回	授業の実際－模擬授業(4)	受講者による模擬授業(輪番制)の実演、担当教員のアドバイス、全体での振り返りを行う。	
	第28回	授業の実際－模擬授業(5)	受講者による模擬授業(輪番制)の実演、担当教員のアドバイス、全体での振り返りを行う。	
	第29回	DVD による授業研究	模擬授業の体験を踏まえて、理想的な授業とはどのようなものであるかを考える。	
	第30回	まとめ・小テスト	全体のまとめと知識の確認のための小テストを行う。	
	試験			
授業の進め方	講義(第1回～17回)、指導案の作成と授業の準備(第18回～23回)、模擬授業(第24回～28回)という流れで進める。			
授業外学習の指示	検定済教科書については、常に教材研究を行うようにすること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	望月昭彦他 2011.『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店 米山朝二他 2013.『新版 英語科教育実習ハンドブック』大修館書店その他、中学校(外国語編)および高等学校(外国語編・英語編)の学習指導要領解説書、中学校の検定済教科書など。 ※詳しくは初回の授業時に指示するので、受講希望者は必ず出席すること。
参考書	授業時に指示する。
参考URLなど	
その他	